



南吉の生涯

童話『ごんぎつね』の作者である新美南吉。愛知県半田市の出身であることはよく知られていますが、実は、安城にとってもゆかりの深い人物です。平成25年は、南吉生誕百年。南吉はどんな一生を送ったのでしょうか。安城では、どのように過ごしていたのでしょうか。

作家として、教師として。

安城は、南吉が過ごした「第二のふるさと」。

生い立ちと児童文学への道

新美南吉(本名正八)は、大正2

(1913)年7月30日、知多郡半田町(現半田市)で生まれました。4歳で母を亡くし、8歳で母方の実家「新美家」の養子に入るなど、複雑な少年時代を送りました。この頃の孤独や母への憧れは、後の作品に垣間見ることができま

す。南吉は、16歳の頃から、若手作家の登竜門であり日本を代表する児童雑誌『赤い鳥』に作品を投稿し始め、昭和7年1月号には『ごん狐』が掲載。この頃からペンネームの「南吉」が定着していきま

した。やと田準一、江口榛一などとの交流を通して、文学活動の世界を広げていきました。

創作活動や、同僚や生徒との交流に最も充実していた「安城時代」

南吉の東京生活は、昭和10年11月に体調を崩して帰郷したことで終わります。半田で会社勤めなどをすることも労働も過酷で、経済的にも精神的にも苦しかったようです。そんなとき、中学時代の恩師の尽力で安城高等女学校の教員になることができました。昭和13年4月のことでした。

安城高等女学校では英語・国語・農業を教えるほか、着任時に入学した



安城高等女学校19回生入学記念写真(昭和13年5月25日) 左端が南吉。南吉は、着任した年に入学した19回生の学年担任となり、以後卒業まで4年間、最も親密な交流があった



新美南吉 【生涯年表】

大正

- 2年 7月30日 知多郡半田町に生まれる (1913)
- 父・渡辺多蔵(母・りゑの二男で、「正八」と名付けられる)
- 6年4歳 母・りゑが病気で亡くなる (1917)
- 8年6歳 継母・志んが来て、弟・益吉が生まれる (1919)
- 10年8歳 母の実家・新美家の養子となるが、4ヶ月ほどで渡辺家に戻る (1921)
- 15年13歳 県立半田中学校へ入学 (1926)
- 6年18歳 半田中学校卒業

昭和

- 7年19歳 『赤い鳥』に『正坊とクロ』『張紅倫』入選 (1932)
- 8年20歳 『赤い鳥』に『ごん狐』入選 (1933)
- 11年23歳 『手袋を買ひに』を書く (1936)
- 12年24歳 東京外国語学校卒業
- 東京で東京土産品協会に勤めるが、体調が悪化して11月には帰郷
- 河和第一尋常高等小学校の代用教員 (1937) を勤める
- 杉治商会畜禽研究所に住み込みで勤務する
- 13年25歳 4月 安城高等女学校に赴任、一年生を担任 (1938)
- 5月 16回生の修学旅行に付き添う(東京、日光、長野方面)
- 8月 滝山寺へ生徒を連れて自転車旅行に行く
- 2月 生徒詩集第一集『雪とひばり』発行(以後六集まで) (1939)
- 4月 新田町字出郷にて大見坂四郎方に下宿

19回生の担任になり、卒業までの4年間を受け持ちました。特に作文や詩の指導に熱心でした。生徒に作文を書かせては丁寧(ていねい)に添削(てんさく)し、また生徒の日記にも言葉を添え、そしてそのやりとりから創作のヒントを得ることもありました。ハル濱(ハルビン)日日新聞の記者になった江口榛一(ハルヒツ)からの依頼を機に作品を次々に執筆(しつぴつ)したのもこの頃で、昭和16年に初の単行本『良寛物語(りやうかんものがたり) 手毬(てまり)と鉢(はち)の子』が、昭和17年には初の話集『おぢいさんのランプ』が出版(しゅつぱん)されました。ところが、同年11月頃から体調が悪化し、翌昭和18年2月には安城高等女学校

を退職(たいしょく)します。そして同年3月22日、喉頭(こうとう)結核(けつかく)で29歳7ヶ月の生涯(せいみ)を閉じました。

昭和23年、元同僚(げんどうりょう)や教え子(おし)たちによつて、安城高等女学校(あんじょうこうとうじょがく)の中庭(なかつま)に南吉(なんきち)の詩(うた)が刻(う)まれた「でむし詩碑(しひ)」が建てられました。南吉(なんきち)の顕彰(けんしょう)碑(ひ)第1号(だいごう)です。

南吉(なんきち)が安城(あんじょう)で過ごした5年間は、教員(きょういん)という社会的地位(しゃかいてい)を得て経済的(けいざいてき)に安定(あんてい)し、さらに教え子(おし)との交流(こうりゅう)から精神的(せいしんてき)にも充実(ちゅうじつ)していました。この「安城時代(あんじょうじだい)」は、新美南吉(しんみなみなんきち)が最も輝(かがや)いた時期(じき)ともいえるのです。



安城高等女学校の校舎の前で木に寄りかかっているところ(昭和16年3月の写真より)



でむし詩碑



岩津天神への遠足(昭和16年3月10日) 教え子たちにまじって楽しそうな様子の南吉。笑顔の南吉を見ることができ貴重な写真



宮路山(みやじさん)ピクニック(昭和15年3月25日) 右から2人目が南吉。同僚の大村先生(右端)の送別として宮路山へピクニックに行き、その山頂で撮ったと思われる

新美南吉の 安城時代

23年	18年	17年 29歳	16年 28歳	15年 27歳
<ul style="list-style-type: none"> 4月 村積山(むらつみさん)へ遠足に行く 5月 哈爾濱(ハルビン)日日新聞へ寄稿(きこう)を始める 5月 18回生の関西旅行(かんせいりょこう)に付き添(つきとも)う 7月 富士登山(ふじとうざん)、画帖(えがしよ)「六根(ろくこん)晴天(せいぜん)」 8月 根清浄(ねじやうじやう)を描く 伊豆大島(いずおほしま)、東京方面(とうきょうはつぺん)視察旅行(しさつりょこう)に行き、画帖(えがしよ)「筆勢(ひつせい)非凡(ひふはん)」を描く 職員(しやくいん)と宮路山(みやじさん)へピクニックに行く 19回生の関西旅行(かんせいりょこう)に付き添(つきとも)う 小説(しょうせつ)「大力(たからぢき)の黒牛(くろぎう)と貨物列車(かぶつりくせん)の話(わたりばなし)」「百牛物語(ひゃくぎうものがたり)」を書く 3月 岩津天神(いづつてんじん)へ遠足(えんそく)に行く 3月 過勞(かろう)から肝臓(かんざう)を患(わづ)い、一時(いち)病床(びんしょう)につく 10月 伝記(でんき)「良寛(りやうかん)物語(ものがたり) 手毬(てまり)と鉢(はち)の子」出版(しゅつぱん) 12月 腎臓(じんざう)結核(けつかく)悪化(あくか)化、血尿(けつに)出る 3月 19回生の生徒(せいと)の卒業(そつぎょう)に際(き)し色紙(しきし)に句(く)を書く 5月 級報(きゅうぱう)「雪(ゆき)とひばり」発行(はつこう) 5月 童話(どうわ)「花(はな)のき村(むら)と盗人(ぬすびと)たち」を書く 10月 童話集(どうわしゅう)「おぢいさんのランプ」出版(しゅつぱん) 11月 勤務先(きんむさき)をしばしば休(やす)む 1月 このころより病状(びやうじやう)悪化(あくか)により学(がく)校欠勤(がくけうきん) 2月10日 長期欠勤(ちがいきん)のため安城高等女学校(あんじょうこうとうじょがく)退職(たいしょく) 父・多藏(たざう)死(し)の遺言(いごん)状(じやう)を書く 異聖歌(いせいか)に未発表(みへいりつ)の作品(さく品)をすべて送(おく)る 3月22日 喉頭(こうとう)結核(けつかく)のため29歳(じゅうじゅうきゅうさい)7ヶ月(ななつき)で永眠(えいみん) 法名(ほふな)釈文成(しやくぶんせい) 9月 童話集(どうわしゅう)「牛(うし)をつないだ椿(つばき)の木(き)」花(はな)のき村(むら)と盗人(ぬすびと)たち」出版(しゅつぱん) 11月 安城高等女学校(あんじょうこうとうじょがく)の中庭(なかつま)に、教え子(おし)たちによつて「でむし詩碑(しひ)」が建てられる 	<ul style="list-style-type: none"> 1月 このころより病状(びやうじやう)悪化(あくか)により学(がく)校欠勤(がくけうきん) 2月10日 長期欠勤(ちがいきん)のため安城高等女学校(あんじょうこうとうじょがく)退職(たいしょく) 父・多藏(たざう)死(し)の遺言(いごん)状(じやう)を書く 異聖歌(いせいか)に未発表(みへいりつ)の作品(さく品)をすべて送(おく)る 3月22日 喉頭(こうとう)結核(けつかく)のため29歳(じゅうじゅうきゅうさい)7ヶ月(ななつき)で永眠(えいみん) 法名(ほふな)釈文成(しやくぶんせい) 9月 童話集(どうわしゅう)「牛(うし)をつないだ椿(つばき)の木(き)」花(はな)のき村(むら)と盗人(ぬすびと)たち」出版(しゅつぱん) 	<ul style="list-style-type: none"> 3月 19回生の生徒(せいと)の卒業(そつぎょう)に際(き)し色紙(しきし)に句(く)を書く 5月 級報(きゅうぱう)「雪(ゆき)とひばり」発行(はつこう) 5月 童話(どうわ)「花(はな)のき村(むら)と盗人(ぬすびと)たち」を書く 10月 童話集(どうわしゅう)「おぢいさんのランプ」出版(しゅつぱん) 11月 勤務先(きんむさき)をしばしば休(やす)む 1月 このころより病状(びやうじやう)悪化(あくか)により学(がく)校欠勤(がくけうきん) 	<ul style="list-style-type: none"> 3月 岩津天神(いづつてんじん)へ遠足(えんそく)に行く 3月 過勞(かろう)から肝臓(かんざう)を患(わづ)い、一時(いち)病床(びんしょう)につく 10月 伝記(でんき)「良寛(りやうかん)物語(ものがたり) 手毬(てまり)と鉢(はち)の子」出版(しゅつぱん) 12月 腎臓(じんざう)結核(けつかく)悪化(あくか)化、血尿(けつに)出る 3月 19回生の生徒(せいと)の卒業(そつぎょう)に際(き)し色紙(しきし)に句(く)を書く 5月 級報(きゅうぱう)「雪(ゆき)とひばり」発行(はつこう) 5月 童話(どうわ)「花(はな)のき村(むら)と盗人(ぬすびと)たち」を書く 	<ul style="list-style-type: none"> 4月 村積山(むらつみさん)へ遠足に行く 5月 哈爾濱(ハルビン)日日新聞へ寄稿(きこう)を始める 5月 18回生の関西旅行(かんせいりょこう)に付き添(つきとも)う 7月 富士登山(ふじとうざん)、画帖(えがしよ)「六根(ろくこん)晴天(せいぜん)」 8月 根清浄(ねじやうじやう)を描く 伊豆大島(いずおほしま)、東京方面(とうきょうはつぺん)視察旅行(しさつりょこう)に行き、画帖(えがしよ)「筆勢(ひつせい)非凡(ひふはん)」を描く 職員(しやくいん)と宮路山(みやじさん)へピクニックに行く 19回生の関西旅行(かんせいりょこう)に付き添(つきとも)う 小説(しょうせつ)「大力(たからぢき)の黒牛(くろぎう)と貨物列車(かぶつりくせん)の話(わたりばなし)」「百牛物語(ひゃくぎうものがたり)」を書く 3月 岩津天神(いづつてんじん)へ遠足(えんそく)に行く 3月 過勞(かろう)から肝臓(かんざう)を患(わづ)い、一時(いち)病床(びんしょう)につく 10月 伝記(でんき)「良寛(りやうかん)物語(ものがたり) 手毬(てまり)と鉢(はち)の子」出版(しゅつぱん) 12月 腎臓(じんざう)結核(けつかく)悪化(あくか)化、血尿(けつに)出る 3月 19回生の生徒(せいと)の卒業(そつぎょう)に際(き)し色紙(しきし)に句(く)を書く 5月 級報(きゅうぱう)「雪(ゆき)とひばり」発行(はつこう) 5月 童話(どうわ)「花(はな)のき村(むら)と盗人(ぬすびと)たち」を書く

※年齢は教え年で表記しています。